

松禪寺報

<http://syozen.com>

石室山松禪寺

住職 高橋 乾峰

〒668-0363

兵庫県豊岡市但東町栗尾 469

電話 0796-55-0034

FAX 0796-55-0066

Mail kenpou@syozen.com

第45号

発行日 平成23年7月20日

仏さまを扱った所とし

目々に好日を見出す生き方を

境内の薬師堂(栗尾区所有)に
お祀りされている本尊の薬師如
来、釋迦牟尼佛、阿弥陀如来、い
ずれも平安時代末期に造られたと
推定されています。平安時代初期
に真言密教が日本
に伝わり、これが
現世利益の追及と
疫病の除去を目的
としていたことか
ら、薬師如来も民
衆のなかに浸透
し、この栗尾の村
にも建立されたの
でしょう。



▲山陰東教区御親授戒会より

しかし、これだ
け立派な仏像が、どのような経緯
で造られ祀られたのでしょうか。
何か大きな災害でもあり、その復
興を祈願したのでしょうか、悪い
病気が蔓延りその治癒を祈願して
の建立だったのででしょうか。いず
れにせよ、古来より人々は仏様を

捧供養せよ」との詔(みこと)のり
を出したのが始まりと言われてい
ます。
先の東日本大震災では言葉では
言い尽くせないほどの被害を被
り、多くの尊い命が一瞬のうちに
奪われました。避難所となったお

境内の薬師堂(栗尾区所有)に
お祀りされている本尊の薬師如
来、釋迦牟尼佛、阿弥陀如来、い
ずれも平安時代末期に造られたと
推定されています。平安時代初期
に真言密教が日本
に伝わり、これが
現世利益の追及と
疫病の除去を目的
としていたことか
ら、薬師如来も民
衆のなかに浸透
し、この栗尾の村
にも建立されたの
でしょう。

境内の薬師堂(栗尾区所有)に
お祀りされて、仏様に救いを求めて
きたことに変わりはありません。
みなさんのお家にある仏壇は、
亡くなった人を祀るだけではな
く、ご本尊である仏様を祀り供
養する、いわばお
家のなかにお寺が
あるのと同じ事な
のです。もともと
は白鳳14年(西暦
六八五年)の3月
27日、天武天皇
が「諸國家毎に佛
舎(ほとけのみや)
を作り、即ち佛像
と経とを置きて礼

寺もあれば、次々に遺体が運び込
まれるお寺もあったようです。葬
儀もできず埋葬、あるいは火葬さ
れる遺体の前で、「せめてお経の
ひとつもあげてもらえまいか」そ
んな声も多く聞かれたそうです。
仏様にすがり、仏様に救いを求め
祈ることによって、胸をかきむし
るほどの苦しみ、悲しみに打ち碎
かれた心を静めることができる、
区切りをつけたかったたのでし
う。まさに、仏様に祈ることによ
って「心を調える」ことができるの
です。
今年の山陰東教区坐禅会での則
竹秀南老大師のお話のなかに「円
満本光国師について参禅究道され
た後奈良天皇が、日本各地で発生
した災害の復興成満を祈つて写経
をされ、仏様に救いを求められた。
尊い命に目覚められたのである。」
また、中国は雲門禪師の「日は是
好日」より「仏様を扱った所とし
自らの生き方に、目々に好日を見出
すことが大切である。」とも説か
れました。
地震、津波、原発被害、何かと
慌ただしい不安漂う今日だからこ
そ、仏様にひたすら祈りましょう。

捧供養せよ」との詔(みこと)のり
を出したのが始まりと言われてい
ます。
先の東日本大震災では言葉では
言い尽くせないほどの被害を被
り、多くの尊い命が一瞬のうちに
奪われました。避難所となったお

捧供養せよ」との詔(みこと)のり
を出したのが始まりと言われてい
ます。
先の東日本大震災では言葉では
言い尽くせないほどの被害を被
り、多くの尊い命が一瞬のうちに
奪われました。避難所となったお

思い通りにならないことも受け入れましょう

『目覚める』をテーマに本山定期巡教を開教

妙心寺派布教師さんにお越しいただいての法話会(定期巡教)を、3月15日午後2時から開教いたしました。約30人余りの檀信徒の皆さん、ご近所の他派の門徒さんも来ていただき、約90分にわたって

の法話に耳を傾けていただきました。

布教師さんは、岐阜県美濃加茂市からお越しいただいた足立宜了師(あだちきりょう)(正覚寺ご住職)で、今年のテーマは『目覚める』(人間の尊さにめざめ、



▲布教師さんの法話に耳を傾けました=3月15日

自分の生活も他人の生活も大切にしましょう)でした。妙心寺派が定める生活信条の一つです。布教師様は、祖師や老師方が残されたお言葉のいくつかを引用しながら、思い通りにならないことを受入れる、認め合い、許し合う、その縁を納得することが大事と述べられ、自分の都合を引き算して「唯生きる」ことを説かれました。

思い通りにならない事が多いのが世の常、まさに、災害に遭遇された方々は人間の力



▲やさしく言葉を説いていただいた布教師・足立宜了師

をはるかにしのぐ自然の猛威にそう思われていることでしょう。その中において、お互いの命を守り支えようと必死の活動がなされています。この縁の深さ、広さに改めて感じ入ります。

今年の法話会では、今回の地震と津波の犠牲になられ、亡くなられた方々の慰霊の回向も行いました。また、急遽募金箱を設置して協力を呼びかけましたが、皆さんも積極的に募金に協力していただきました。

布教師さんがお話しされた中に、「道具に頼らない。便利なものには落とし穴がある。」という老師の言葉がありました。今一度、自分は毎日何をしているか、布教師さんは「看よ、看よ」と優しくも厳しい叱咤激励の言葉を残していかれました。



当たり前の暮らしを営めることに感謝しながら

春彼岸会を執り行いました

春の彼岸中日会を3月21日春分の日に執り行いました。境内にはまだ雪が残っていましたが、前日から雨で溶けて少なくなりまし
た。雨降りでも寒い彼岸でもあり
ました。

午前11時から本堂で参拝者皆さんと一緒に法要を営みました。今年
は東日本大震災被災物故者霊位の
供養も併せて執行、皆さんにも
焼香していただきました。また、
玄關に置いた募金箱へ、募金をし



▲例年の弁当ではなく、おにぎり味噌汁で

てくださる方も多くありました。

また、齋座(昼食)は例年なら
当番さんによって弁当をつくって
いただくのですが、今回は被災さ
れた皆さんの気持ちになって、お
にぎり味噌汁だけの簡素な食事
にしました。そんな真似事をして
何になるとお思いの人もあるで
しょうが、たとえささやかでも気
持ちを傾けることは大切なことだ
と思います。電気も水も燃料も、
食べ物もだつて不自由なくありま
す。そんななかで、普段はそれら
の有り難さに心を傾けることは少
ないでしょう。あつて当たり前な
時代でもありますから。だからこ
そ、例え真似事であつても、まる
でささやかなことだと思ひます
が、被災地で懸命に生きている人
達の気持ちに近づこうとする、そ
の心を大切にしたいと思ひます。
夜は、西谷の桂昌寺さんでも彼
岸法要を行いました。

今年も桜が満開、ライトアップも



▲桜は青空がお似合いです

境内駐車場に植えられて
いる桜ですが、大雪で痛め
つけられ、寒さも厳しくて
開花が心配されましたが、
昨年に比べ約一週間遅れで
はありますが、4月10日に
開花しました。以前よりは
本数も減り、また木自体も
老朽化していますが、今年

晩鐘や桜は白く暮れのこる

英州

月の光が一番幽玄な夜の桜を
演出するかもしれませんが…



もピンクのきれいな花びらが
山寺を包みました。
4月13日(水)からはライ
トアップを今年も行いまし
た。近所の皆さんも散歩がて
ら夜桜を愛でておられまし
た。

坐禅と講座の二日間に延べ130名が参加

今年も山陰東教区坐禅会が養父市の寶積寺様で開かれました

坐禅会日単より

6月18日(土)曇り

午前11時に寺院方が会所に集し、本堂など準備を整え老大師到着を待つ。小生は、午前11時15分、



▲妙心寺は靈雲院の則竹秀南老大師の講座を拝聴する参加者

和田山駅に老大師を迎え、会所に案内。午前11時40分、養父市奥米地の会所寺院に到着。齋座。

午後12時30分、参加者受付開始。午後1時、開講式。般若、心経、本尊回向、坐禅和讃、参加者各家諸諸靈位回向、引き続き開講。

昨年引き続き宗門安心章第二自覚安心より、「寒暑たがいに移れども慧玄が這裡に生死は無しと示されぬ。日々是好日、人々は真人、行かんと要すれば即ち行き、坐せんと要すれば即ち坐す、餓え来れば飯を喫し、困じ来たれば即ち眠る。ただ平常にして無事なれば無事、是貴人と悟るべし。」についての法話。無常殺鬼、災難は時と場所を選ばず。まさに諸行無常である。洞山寒暑回避(寒暑はいかに回避するのか)、暑さや寒さに成りきる、生死の一大事は即ち寒暑の問題、寒暑



▲ひたすら坐る、正しく坐る=6月19日、養父市の寶積寺様にて

は生死の問題である。平常無事。夏日悟空上人の院に題す。「安禅不必須山水 滅却心頭火自涼」(安禅は必ずしも山水をもちいず、心頭を滅却すれば火も自ずから涼し)。東日本大震災被災現場に観

音菩薩の代受苦(災難の苦しみを観音様が身代わりになつて引き受ける)を見る。以上が講座の骨子と記録す。

午後3時、総茶礼。午後3時30分、止静、坐禅。老大師の検単、独参に6名。

午後4時30分、晚課。午後5時に終わり老大師を宿所へご案内。本日の参加者88名。

6月19日(日)曇り、蒸し暑い。午前7時、寺院方集合。午前7時30分、参加者受付開始。午前8時より止静坐禅開始。

午前8時30分、老大師が宿所より到着。

午前9時より講座。昨日に引き続き、宗門安心章第二自覚安心のついて。日日是好日、人人是真人を拝聴す。円満本光国師(妙心寺二十五世大休宗休禅師)について参禅究道された後奈良天皇が、日本各地で発生した災害の復興成満を祈つて写経をされ、仏様に救いを求められた。尊い命に目覚めることについて説かれた。また、中国は雲門禅師の「日日是好日」より仏様を抛り所

「日日是好日」より仏様を抛り所



▲加行礼拝=ひたすら諸仏に対して丁重に五体投地の礼拝を行い懺悔した

とし自らの生き方に、日々好日を見出すことも説かれた。
午前10時20分、加行礼拝、小憩の後、10時45分より坐禅。老大師の検単。独参5名。
午前11時45分小憩、正午齋坐、老大師御同席。休憩。
午後1時、坐禅止静。
午後1時30分より講座。日是好日、人人これ真人について拝

聴。盤珪禪師の「不生の佛心」、人は生まれながらにして佛心こそなえていると説かれ、臨濟禪師は、「二無位の真人」と説かれ、何ものにもとらわれない真実の自己、あるがままに受け止めることが即ち真人であり、「正受」、すべてを正しく受け止める、これが「日好日」なりと示される。「心法無形、十方通貫」(心法形無くして、十方に通貫す)心というものは形がなくて、しかも全世界を貫いている。すべての人がもれなく所持し、形もなく、あらゆる方角に通じる心の働き、これ即ち真人なりと示される。
午後2時30分、閉校式。晩課。般若心経、坐禅和讃読経。総茶礼。
午後3時解散。本日の参加者40名なり。老大師を出石町の2寺にご案内。

※ ※ ※
この教区坐禅会は、毎年行われます。ぜひ、次回に参加してみませんか。

庫裡屋根改修工事は無事完了しました



大雪で垂木折損という被害を受けた庫裡の屋根ですが、お陰様で檀徒皆様のご支援により無事復旧できました。誠にありがとうございました。
4月2日(土)に足場が組まれ、4日(月)に工事が着工され、6日には(水)瓦も敷かれ、好天に恵まれて無事工事も終わりました。
また、境内の薬師堂は

ご協力ありがとうございました



村所有ということもあり、こちらの修繕は栗尾区にお世話になりました。ありがとうございました。

◎庫裡屋根修繕工事総経費73万5千円(施行業者・徳網建設)

※ ※ ※

また、東日本大震災復興義援金にもご協力いただき、誠にありがとうございました。山陰東教区を経て本山に届けられました。

◎募金総額 5万5千円

四国八十八カ所霊場巡拝に行ってきました

好天に恵まれ土佐・伊予国の37番から51番までを巡拝

4月25日(月)

第4回四国八十八カ所霊場巡拝の旅を4月25日から27日にかけて行いました。今回は、もつとも遠方であり、移動時間もかかるため2泊3日の巡拝です。午前6時前に寺を出発、正午前には四万十市に着きました。窪川町のドライブインで昼食をいただいた後、第37番札所の岩本寺から巡拝開始で



▲第40番 観自在寺=愛媛県西予市

す。きょうは、ほとんどが移動時間がかかるため、この後、39番延光寺、38番金剛福寺と3ヶ寺で今日は終わりました。さすが南国、快晴、青空で視界もよく、気持ちの良い一日でした。

今宵の宿は、38番札所の金剛福寺の宿坊です。宿坊に入るまでに、みんなで足摺岬を散策しました。宿坊に入って開浴、午後6時には夕食をいただき、後は部屋でゆっくり体を休めました。朝が早かったため、みなさんすぐにぐっすり眠られたようです。



▲第44番 大宝寺=久万高原町

4月26日(火)
午前5時起床、同40分より本堂にて朝課。終えて、朝食。出発までの少しの時間、散歩を兼ねて昨日も訪れた足摺岬の灯台や展望台まで歩いてきました。海の青さ、山々の緑が鮮やかで美しかったです。午前7時20分、宿坊を出発しました。

きょうは宇和島を指します。しばらくバスに揺られ、第40番札所の観自在寺を参拝しました。参拝を終えてからバスに戻るまでの間、あまなつ100%絞り立てのジュースをいただきましたが、本当においしかったです。参拝を終えて宇和島市内へ移動し、昼食をとりました。市内は恵美須町にある「和日輔わびすけ」です。見た目も美しくお値段もリーズナブル、ビーエス観光のタネちゃんの努力のたまものです。ごちそうさまでした。

午後からは5ヶ寺参拝の予定でしたが、明日の天気予報が雨ということもあり、明日参拝予定の



▲第43番 明石寺(めいせきじ)=愛媛県西予市

1ヶ寺を加えて計6ヶ寺を参拝しました。これが、明日には大きな成果となりました。

今宵の宿は、小説「坊ちゃん」で有名な道後温泉です。小説や「坂の上の雲」のロケにも使われた有名な温泉、その裏手にある「椿館」が宿泊するホテルでした。とても立派なホテルでお値段が気になりましたが、ここもタネちゃんの努力が実った所でした。おいしい料理をいただき、食後には温泉に向かう人、街を散策する人などそれぞれに道後温泉の夜を楽しまれたようです。

4月27日(水)

午前6時前に起きて、昨夜入れなかつた道後温泉へ行つてきました。広間に上がるとゆかたを貸してくれ、着替えて湯に向かいます。あがると天目茶碗にはいったお茶と煎餅が出てきました。しばらく涼んで帰ろうとすると、皇室のための「又新殿」(ゆうしんでん)を案内すると言われ、見学しました。今はお湯も干上がってでなくなり、利用されることはないようですが、過去には10人の皇室の方々が入れられたとか、温泉といえども気楽に入れる感じではないですね。

おいしい朝食をいっぱいいただき、午前7時50分頃にホテルを出発しました。昨日から、「きょうは雨らしい」という予報が頭をよぎり、雨具の確認もいたしました。しかし、午前中は晴れ間もあり、良い天気でした。

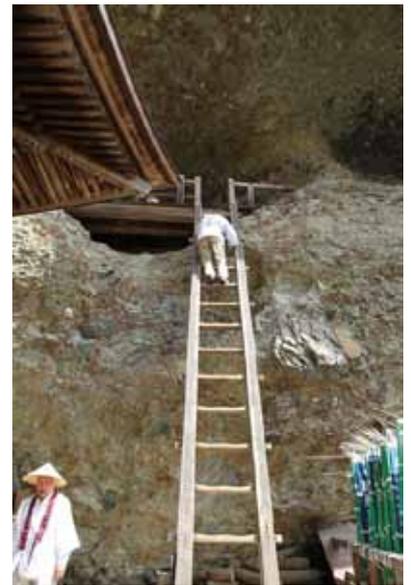


▲第37番 岩本寺=高知県・四万十町

にかけられ、登ってみると窪んだところが法華仙人掌跡ということでした。本堂を見下ろす眺めの良いところですが、急勾配の段差の大きな梯子で、足がすくみました。

次の第44番大宝寺も昔は「遍路ころがし」といわれ

まずは今回の巡拝のなかで最も歩く距離が長い第45番岩屋寺からスタートです。距離は1キロも歩きませんが、勾配のきつい所もあり、年配の同行者にはいつでも引き返してよいですよと言いました。



▲第45番 岩屋寺=久万高原町

たが、みなさん元気に上られました。巨大な石の山にあるお寺、といった感じで、山そのものを本尊不動明王としているとのことでした。本堂の裏手にも巨大な石の山がそびえ立っていました。本堂の右奥手に木製の大きな梯子が岩山

る難所であったと聞きますが、今でも駐車場から寺までは、そこそこの距離を歩かねばなりませんから、みなさんも岩屋寺よりしんどかったと言っておられました。

愛媛県は久万高原町の日本きじ料理のお店で昼食となりましたが、さすがにきじ料理は予算外というところで、鳥の唐揚げや鍋物、煮染めなどがついた定食でしたが、このお店もおいしい料理でした。

午後、やはりだんだんと空模様

として割ってしまった後、次々になくなった衛門三郎の8人の子どもの墓が近くにあるそうです。次に第46番浄瑠璃寺に参りましたが、いよいよ雨が降りそうです。急いで第48番西林寺へ向かいます。この本尊・十一面観世音菩薩は絶対の秘仏なのですが、なぜか後ろ向きにまつられているとのこと、本堂での読経後は、本堂の裏をまわって大師堂に参ります。読経後には、本当にポツリポツリと雨が落ち始めました。きのう、最後にまわる予定だった札所を巡拝しておいて本当に良かったと思います。

今回の巡拝は2泊3日というところで、雨の心配もあり、現に3日は雨の予報でしたが、二日間は快晴に恵まれ、三日目も雨が降り出す前に巡拝を終えることができました。こんな幸いなことはありません。三日間で土佐の国3ヶ寺、伊予の国12ヶ寺、計15ヶ寺を巡拝いたしました。

次回第5回の巡拝は、11月28日〜30日に行います。ぜひ、ご参加ください。新たな参加も期待しております。

花祭り

世界中の仏教徒がお釈迦様の生誕を祝います

当山は5月5日子どもの日に執り行いました

毎年4月8日はお釈迦様の誕生を祝って、花祭り（あるいは降誕会、灌仏会、浴仏会などと呼ばれる）という仏教行事を、全国のお寺で営まれます。花御堂に誕生仏を安置し、お花などを供え、甘茶をそそぎます。仏教徒としてお釈迦様の徳をたたえる大切な行事です。

当山では、5月5日子どもの日が、その日として毎年行っています。



▲本堂前に花御堂を置き近所の子も達が参拝



▲ボーダナート目玉寺には参拝の列が夜まで続きます=カトマンズ

ネパールやスリランカでは5月満月の日を「釈尊の日」として盛大に祝います

すが、今年も近所の子も達や皆さんがお参りに来られました。お釈迦様がお生まれになったといわれるルンビニの花園は、イン



▲ボーダナート目玉寺。塔の目は観音さまの目でカトマンズ市内を見守っている。

ドとの国境に近いネパール領内にあります。お釈迦様の生誕地周辺を聖地として整備され、日本を含む世界の仏教国がさまざまな寺院や仏塔を建設しました。

そのネパールは、特定の国教を持たない国で、ヒンドゥー教徒と仏教徒が多く暮らす国ですが、お釈迦様の記念日として仏陀シャンティという祝日があります。日本では一般的にお釈迦様の誕生は4月



▲目玉寺のまわりを回る参拝者=カトマンズ

8日、成道は12月8日、涅槃は2月15日となっていますが、南方仏教の伝承では誕生、成道、涅槃がすべて同じ日で、街のあちこちに仏旗が掲げられこれを祝います。

この日はヒンドゥー教徒にとっても大切な日であり、ヴェサク祭といつてやはりお釈迦様



▲ヒンズー教の女の子の成人式＝カトマンズ市内の旧王宮前広場にて

私たちが原点である「めざめ」に熱い祈りを捧げているとのことでした。

が、お寺のまわりを仏旗を掲げたり、あるいは五体投地しながら、ぐるぐるまわるのです。このパレードは夜に入っても続き、この

寺院のぐるりに灯明が輝き幻想的な一夜を醸し出します。

お釈迦さま生誕の地 ルンビニ園



▲お釈迦さま生誕の地であるルンビニでは、周囲も含めて聖地として日本をはじめ世界の仏教国が仏塔などを建設した。マヤ聖堂は日本の建築家・丹下健三氏の設計。下の写真も同じ＝ネパール・ルンビニ



▲マヤ聖堂内部に設置された「釈尊の出生の彫刻」。多産の女神として崇められ、その礼拝によって表面が摩損したという。高さ約 2 m。



▲マヤ聖堂の内部。遺構を保存するため、上記のような建物を遺構の上に建てたもの。



今ある命に感謝し、戒めを保つことを誓う、その素朴な思いこそが仏教徒の何より大切な修行にほかなりません。



▲村中から餅米が集まり、餅に仕上げている。暑い最中の作業だが、多くの協力があって成り立っている。当日の振る舞い餅は、ヨモギを入れていただいた。

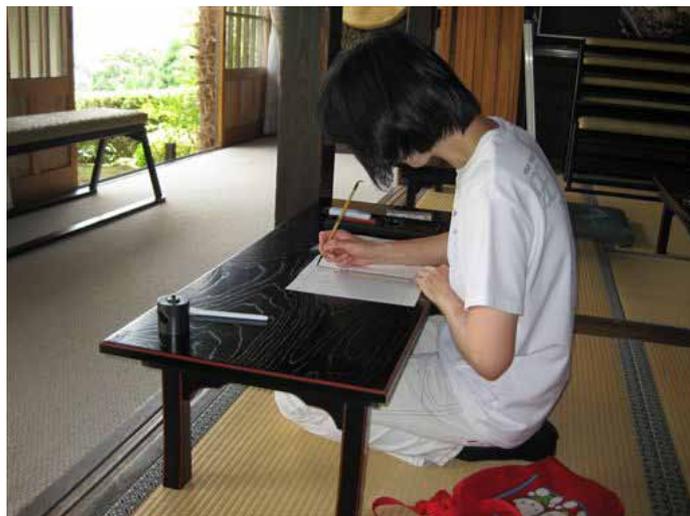
8 日（金）には約 3 斗弱の米洗い、9 日（土）は午後 5 時にふるさと委員さんと有志が集まって、桃太郎旗や看板の設置、今年は駐車場に通ずる桜の木が通行の邪魔になることから、これの伐採もしてもらいました。餅米が蒸

し上がったら、餅つき開始。二つの臼で、13 臼をつきあげました。搗き終えたのは午後 9 時もまわっていました。お疲れ様でした。10 日は四万六千日という月に一日設けられた観音さんの功德日で、この日に参拝すると 4 万 6 千

日分参拝したことに同じ功德があるとされていますが、薬師如来にも同じ功德があると勝手に言い換えて、薬師祭（栗尾ふるさと 135 委員会主催）を行いました。午前 11 時から本堂で写経を開始。午後 1 時半から薬師堂で法要を行いました。今年には丹後の玉田寺様にお手伝いをいただきました。法要後には境内で餅つきが始まりましたが、今年にはよもぎ餅でありません。よもぎ色のきれいな餅に仕上がりに、参拝者に振る舞われまし

7 月 8 日（金）に梅雨明けが発表された途端、真夏日のカンカン照りの日々が続きました。昨年の雨の薬師祭とは打って変わって、今年にはカンカン照りの暑い薬師祭になりました。薬師祭が始まって 60 年近くなりますが、当時から餅

まきが行われてきました。食べ物の豊かな今日では、昔ほどの有り難さは感じてもらえませんが、今も続けているわけです。しかし、村の皆さんの協力なしではあり得ないお祭りとなっております。



▲写経を奉納する人もありました＝本堂にて



▲コンサート出演のセシー・トモさん撮影（ホームページより）

栗尾ふるさと 135 委員会主催の薬師祭を開催

心を一つにしてオンパレード…

た。午後2時半から「お寺の縁側コンサート」の始まりです。このコンサートも今年で13回目を迎えました。出演してくださったのはセッシー・トモさんで、ソロの弾き語りをじっくり聴かせてくださいました。セッシー・トモさんは、コブクロのレコーディングやコンサートに参加されたり、ブラザー・トムの「リアルブラッド」など幅広いジャンルで活躍されています。「春うらら」「ある晴れた日」のほか、自身が内線前のカンボジアを訪れた時の感動を歌にし



▲想いを歌にして伝えるセッシー・トモさんのコンサート



▲コンサートではいつもお世話になる玉田寺様も途中から参加され、リハーサル無しとは思えない息のあった演奏を聴かせてくださいました。

た「Feed Back〜散(Sun)」などを約1時間にわたって演奏し歌っていただきました。どの曲にも、セッシー・トモさんの祈りや願いなどのメッセージが盛り込まれていました。コンサートの途中からは玉田寺様も出演され、「カホン」(木箱のような物の上に座って前面を叩くリズム楽器)という珍し

い打楽器で伴奏され、セッシー・トモさんと息の合った演奏を披露されました。午後3時半過ぎから恒例の餅まきでした。わいわい、キャー

キャーという歓声が境内にこだまして、和やかな餅まきでした。お供えの大きな餅を見事ゲットした女の子、お母さんとうれしそうに帰っていかれました。



▲災いを払うための餅まき。ふだん静かな境内ですが、この時ばかりは賑やかでした。大きなお供えのお餅をゲットした女の子、どこから来てくれたのでしょうか。うれしそうなお顔が良かったです。また来年も来て下さいね。

ほんの半日ではありますが、お寺で心を一つにして仏さまに祈り、いろいろな人とのふれあいができたことに感謝申し上げます。



平成 23 年

施 餓 鬼 会

【日時】 8月7日（日）
午前10時より

施餓鬼会は、お釈迦様の十代弟子のお一人、阿難尊者の故事により、飲食供養の功德により亡者を救う行事として起こったものです。「餓鬼に施す」と書きますが、餓鬼とは六道のひとつで、苦しみの世界であり、食べ物が無い飢えの世界なのです。しかも、餓鬼は自分の力で餓鬼世界から抜け出すことができないため、施餓鬼供養がその救いの道とされています。有縁はもとより、無縁の衆生に対しても供養する法要であり、自分自身に与えられた生命に感謝する意味合いもあります。

今年も多数の和尚様により法要を執り行います。施餓鬼はもともと特定の霊を供養するものではなく、ご先祖様を始め、志す精霊にご供養することによって施主皆様の現世安穩が得られるといわれています。ぜひ、ご家族お揃いでお参りください。

なお、施餓鬼会の日程と今年初盆を迎えられる方は下表のとおりです。

| No. | 喪主(敬称略) | 住所 | 続柄 | 故人名 | 命日 |
|-----|-------------|-----|----|-----|------------|
| 1 | 山門大施餓鬼・添施餓鬼 | | | | |
| 2 | 西川 昌子 | 東京都 | 夫 | 吉信 | 平成22年9月3日 |
| | 岡田 和男 | 栗尾 | 父 | 良造 | 平成22年9月28日 |
| | 福富 省吾 | 出石 | 義父 | 和夫 | 平成23年3月25日 |
| 3 | 栗田 幸夫 | 平田 | 父 | 昭 | 平成23年2月8日 |
| | 栗田きくの | 平田 | 夫 | 卓次 | 平成23年2月28日 |
| 4 | 中島 敏幸 | 栗尾 | 父 | 強 | 平成23年2月18日 |
| 5 | 西本 武紘 | 佐田 | 祖父 | 一男 | 平成23年5月13日 |
| 6 | 鶏魂供養 | | | | |



平成 23 年 お盆参りの日程

| 棚経実施日 | 地 域 |
|----------|--------------------|
| 8月9日(火) | 清滝→本城→柴地→山根→貝田 |
| 8月10日(水) | 久畑→石原→佐田→大貝→平田→佐々木 |
| 8月11日(木) | 出石町→南尾 |
| 8月12日(金) | 豊岡市→福知山市→岩滝 |
| 8月13日(土) | 西谷 |

棚 経

たなぎょう

まもなくお盆を迎えます。お盆は、普段から何も催促なさらないご先祖さまとの語らいの時でもあります。8月13日が迎え火にあたり、16日が送り火です。お墓をきれいに掃除して、ご家庭では仏壇を丹念に掃除して、お花、ろうそく、お線香、果物、お菓子、季節の野菜などを供えます。

お寺からは、9日から13日の間、棚経といって各種家を廻って回向いたします。下表の日程で参る予定ですが、諸般の都合から急遽変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。朝から廻りはじめますが、後半は午後になります。